

(別紙様式)

都道府県番号	40
都道府県名	福岡県

()

学校名及び規模

福岡市立高宮小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	20
児童数	48	56	68	43	61	51	9	336	

実践研究の概要(主題(テーマ)及び設定の趣旨)

研究主題

問いの心をもって学習に取り組む児童の育成

() 本校学校教育目標より

本校は、教師や児童が活力に富む「生き生きとした学校づくり」を、教職員を中心として、児童、保護者、地域とともに推進している。

そのためには、教職員の日々の教育実践、特に授業の充実が最も大切であり、分かる魅力ある授業が行えるよう、創意工夫、改善に努めている。また、自立心に富んだ児童の姿を、学習の中では解決に向かってやっという強い意志をもった児童とし、その育成を図っている。

そこで、解決に向かってやっという強い意志を「問いの心」としてとらえ、教職員や児童がそれを意識して指導や学習に臨むことで、本校学校教育目標の具現化を図りたいと考えた。

() 本校の実態より

本校は、「学力向上フロンティア事業」の一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図るといいうねらいを受け、的確な児童理解が必要であると考え、学力検査、知能検査、意識調査を5月に実施した。

学力検査の結果

全校的にC評価に位置する児童の割合はやや低く、B評価に位置する割合が多いことがわかった。また、「算数への関心・意欲・態度」「数量や図形についての表現・処理」については、A評価に位置する児童の割合は高く、「数学的な考え方」のA評価に位置する児童の割合は低かった。

算数科学習についての意識調査の結果

全校の児童の8割が、算数の学習が好きである。「計算が好き」と答える児童が多いのに比べて、「文章題をとく」「考えをつくる」「説明する」の項目については、あまり好まない傾向にある。

「つかむ・見通す・つくる・深める・生かす」の学習過程の中では、「問題を読んで意味をとらえること」はできるものの、「自分なりの見通しをもつ」「学習したことを次の学習や生活に生かすこと」に自信をもって取り組めることができていないようである。しかし、友達の考えを聞き、「生かす」段階での問題に取り組むことはできている。

「少人数指導やコース別学習が好きである」という項目では、「分かりやすい」「集中できる」という理由で好んでいる児童が多い。

以上のことから、「数学的な考え方」や「既習を生かして見通しをもち、学習を進める力」を育成することが大切であると考え。そのためには、個に応じた指導のための教材の開発や指導方法・指導体制の工夫改善などを行い、児童自ら課題解決していく学習が必要と考え、本主題を設定した。

実践研究の内容について

() 研究体制の工夫

本校は、学力向上推進委員会を設置し、「学力文化」という基盤をもとに、全職員が算数部と理科部に所属し、学力向上のための研究を行っている。

学力文化づくり ... 学力を高める条件整備（心的・事的・人的）
「聞く力」の育成をめざした学習，生活指導 聞くことは，相手を大切にすることであり，学ぶ姿の基礎である。本校は，「聞くこと」に力点を置き，学習の中でも，生活の中でも最重視している。 午前中5時間制の中での指導の充実 午前中5時間制により，週1時間の「高宮タイム」と，毎日のスペース活動（10分～45分）を生み出すことができている。その中で，全校読書タイムと全校スキル学習を取り入れている。 職員の指導力を高める研修の進め方（授業研究を通して） 学力をつけるためには，教師の授業力をあげることが大切であるという考えから，教師がお互いの授業を見て，授業づくりについて学び合っている。

() 実践研究の内容

本校は、算数科と理科において、「学力向上フロンティア事業」の研究内容を深めている。

発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発

- ・ 発展的な学習の教材の開発
- ・ 補充的な学習の教材の開発

個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善

- ・ 自己選択，自己決定ができる場の設定
- ・ 少人数指導やコース別学習
- ・ 交換授業や教科担任制の導入

児童の学力の評価を生かした指導の改善

- ・ 福岡市評価事例集をもとに，評価補助簿を作成し，指導と評価の一体化をめざした学習

今年度の発展的・補充的な学習のための教材の開発

算数科の発展的な学習例

学 年	単 元	学 習 問 題 ， 教 材 の 工 夫
1 年	たしざん	合わせて13円になる2つの品物の組み合わせを考える逆思考の問題
2 年	かけ算1	2から5までのかけ算の九九を活用して，箱に収まっているお菓子の個数をいろいろなやり方で求める問題
3 年	長方形と正方形	長方形・直角三角形の混じった陣取りゲームの広さを比べる問題
4 年	面積のはかり方と表し方	学校の運動場や自分たちの住む町の面積をaを単位として求める問題
4 年	わりざんの筆算2	3位数÷2位数の計算を生かし，わられる数やわる数のけた数を増やして計算する問題
5 年 Aコース	平行四辺形と三角形の面積	台形の面積を求め，その公式を考える問題
6 年	立体	面カードを使って，いろいろな立体を組み立てる問題
6 年	比例	反比例の関係にある2量の変化の特徴を調べる問題

算数科の補足的な学習例

学年	単元	学習問題，教材の工夫
1年	かたちあそび	はこ，つつ，ボールの形を粘土で構成し，それを箱の形につくりかえる問題
2年	形をつくろう	四角形を1本の直線で切って，2つの図形を作る問題
3年	長方形と正方形	敷き詰め模様作りを通して正方形や長方形，直角三角形の定義や性質の理解の定着を図る問題
3年	重さのはかり方と表し方	いろいろなものを使い，ぴったり1kgをつくる問題
5年	くらべ方を考えよう	関係を図に表し，問題づくりをし，お互いに解きあったり問題をつくりかえたりする問題
5年 Bコース	平行四辺形と三角形の面積	ひし形・台形の面積を工夫して求める問題

理科の発展的な学習例

学年	単元	学習問題，教材の工夫
5年	もののとけ方	ミョウバンのとけ方を，食塩のとけ方やホウ酸のとけ方と比べて調べる問題
6年	電磁石のはたらき	電磁石の強さの要因を巻き幅や導線の太さを変えて調べる問題

() 成果と課題

(成果)

学力検査から個人カルテを作成し，支援に生かしていけるようにした。カルテづくりにより，児童の得意，不得意な面を把握し，日常指導の準備を考えることができた。

発展的な学習，補足的な学習の教材開発については，その内容についてはまだ試行錯誤ではある。しかし，児童が「教科書の問題が終われば学習が終わった」という姿から，「学習したことが使えることはないかな」「本当にわかったのかな」という言葉が出始め，新たな課題を生み出す姿が見られるようになってきた。

評価補助簿を活用することで，教師が学習のねらいをより具体的な児童の姿でもつことができ，個に応じた支援の仕方がより適切に行うことができるようになってきた。

授業研究を通して，他の学級の学習の仕方や支援のあり方を学んだり，児童の学力を伸ばすためには，どのようにしたらよいかを考えたりして，一時間一時間の授業を大切にしていこうとする教師の意識の高まりができてきた。

少人数指導やコース別学習だけでなく，選択問題や多様な教具の準備による児童の自己選択・自己決定する場の工夫を行うなど，個に応じた指導方法の手だてを考えることができてきた。

(課題)

学力テストの伸びを検証していくこと

個に応じた指導のために，指導と評価の一体化を考えた評価補助簿をさらに工夫すると共に，支援に生かすために評価補助簿の効率のよい活用の仕方を考えること

理科における発展的な学習・補足的な学習の教材開発と，算数科における一層の発展的な学習・補足的な学習の教材開発を実践していくこと

() 成果の普及方策

「福岡市学力向上推進協議会」主催のもと，2回の学力向上フロンティア事業実践交流会を行い，福岡市の小学校教職員，PTA，保護者の方々に，研究の成果を報告している。